

細菌性肺炎の重症化分子機構の解明と 新たな感染制御戦略の創出

Molecular Mechanisms of Severe Bacterial Pneumonia and
Novel Infection Control Strategies

日時: 2026年5月21日(木曜日)

17:30 ~ 19:00

場所: 大講義室 (外来診療棟 6階) + Web

*本講演は、医学研究先端講義(先端医学トピックス)を兼ねております。



Zoom URL:
<https://us02web.zoom.us/j/82981929930?pwd=BmwyNOO2urFKjy4mkoTnr1bPscI4LD.1>



住友 倫子 教授

徳島大学 大学院医歯薬学研究部
口腔微生物学分野 教授

超高齢社会が進行するわが国において、肺炎および誤嚥性肺炎は主要な死因の一つである。高齢者では、感冒やインフルエンザなどのウイルス感染症に罹患した後、口腔や鼻咽腔に常在する肺炎球菌や口腔細菌による細菌性肺炎を合併することが多い。重症肺炎の主要な原因菌である肺炎球菌は、WHOが新規抗菌薬の開発が緊急に必要な薬剤耐性菌として警鐘を鳴らしている菌種の一つであり、適切な抗菌薬使用とともに、肺炎の病態生理に基づく新たな感染制御法の確立が求められている。

私たちはこれまで、インフルエンザウイルスの先行感染が高齢者肺炎の重要なリスク因子であることに着目し、インフルエンザに合併する細菌性肺炎の重症化機構の解明に取り組んできた。また、気道上皮のストレス応答や線維化などの組織環境の変化が、細菌感染の成立および進展にどのように関与するかについて、感染モデルマウスとヒト病理検体解析を組み合わせで検討している。

本講演では、これまでに得られた知見を紹介するとともに、それらの成果を基盤とした新たな感染制御戦略の可能性について議論する。

担当: 大学院医学研究科 附属感染症センター 臨床ウイルス学分野
教授 森 康子

主催: メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

連絡先: 研究支援課研究企画係 天羽 (内線5189)

E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp